



広い道

国際ロータリー第2510地区

2010-2011年度 ガバナー **佐々木正丞**

(札幌RC)

「我々の主な目的は、明日を担う青少年のために広い道をつくることである。」—— これは、ロータリー財団の1943年キャンペーン委員会委員長のE. W. パーマー氏の言葉です。この言葉から明らかなように、ロータリアンにとって次代を担う人材の育成、すなわち、健全かつ善良な青少年の育成が、いかに大切な責務であるかということが分りますが、いうまでもなく、将来を担う「新世代」の育成は、何もロータリーに限ったことではありません。家庭、企業、社会にとっても、はたまた国家にとっても重要なことでもあります。「企業」は英語で「enterprise」とか「firm」とか色々な表現がありますが、それらの中でもとりわけ、注目すべき表現として「going concern」ということばがあります。これは、「継続する企業」を意味し、企業が一時的な短命なものに終わってしまうのではなく、いつまでも存続し、発展するものとしてとらえられているのが分ります。欧米とは、やや事情が異なりますが、会社や家の存続・繁栄を目的とした日本の社是・社訓などはその表れですし、家訓・武家訓なども同様の趣旨であります。

このように組織や集団の継続性・持続性というものが、いかに重要であるかは、上述の例からも明らかですが、その継続性・持続性を保つために次世代を担う若い「新世代」をいかに育てあげてゆくか、が決定的な意味を持って参ります。「世代」＝「generation」ということばは、もともとラテン語で「生殖すること、生み出すこと」を意味していたようですが、このような人類の本源的な営みが、1回限りで途絶えてしまうものではなく、連綿として継続され、それによって悠久の人類固有の歴史を形成し、現在に至っているわけであります。「新世代」はまさに人間社会における継続性・持続性の旗手といっても過言ではありません。

「未来は、すでに現在の一步一步の歩みの中にある」といわれます。私たちロータリアンが、次世代のリーダー、「新世代」を育ててゆくために、地域社会への奉仕、国際理解と平和の実現にむけて、改めて日頃のロータリー活動において彼らの目線に立って彼らのために何ができるか、何を成すべきかを念頭において活動することが、「新世代」のために「広い道をつくる」確かな第一歩になるように思われます。

今月は、新世代のための月間であります。本年の規定審議会で新世代奉仕が第5番目の奉仕部門となり、その重要性が明らかとなったところではありますが、ロータリーの心を理解できる新世代の人々をロータリーの心をもって育もうではありませんか。新世代のために広い道をつくらうではありませんか。